

# 英米文学科主催 講演会のお知らせ

「イギリス文化特講 II(2)」(担当者: 久野陽一)において、ゲストスピーカーをお招きして講演会を実施します。受講生以外の学外の方の参加も歓迎いたします。事前の予約や参加費は必要ありません。皆様のご参加をお待ちしております(配信の予定はありません)。

**題 目：** 移民と民間の音楽教育がもたらした現代 UK ジャズの隆盛

**講演者：** 柳樂 光隆氏

**日 時：** 2022 年 12 月 22 日 (木) 5 限 (16:50-18:20)

**場 所：** 9 号館 2 階 922 教室

## 講演内容：

2010 年代半ばから、イギリスのジャズが話題になっています。ロバート・グラスパーやカマシ・ワシントンといったアメリカのジャズ・ミュージシャンがヒップホップをジャズに取り込んで新たなリスナーを獲得し、成功を収めたように、イギリスではグライムやアフロビーツなどを取り込んだジャズ・ミュージシャンたちが注目を集めています。その勢いはパンデミックを経た現在でも衰えていません。そんな現在のイギリスのジャズと、ジャズ・ミュージシャンたちが関わっている音楽の特徴はアフリカや西インド諸島からの移民の子供たちが中心になっていることです。それが音楽にも直接的に関係しています。そして、イギリスには彼らをサポートする様々な仕組みがあり、それが移民の子供たちが自分たちのアイデンティティを音楽に反映させながら、活躍できる状況を育んでいます。

私は 2010 年代から多くのイギリス人ジャズ・ミュージシャンや教育系の団体のスタッフなどに取材を重ね、2018 年にはロンドンにも取材に行ってきました。この講演では 80 年代以降のイギリスのジャズの概要から、現在のジャズの状況、それを取り巻く環境や背景について、多くの発言や私の体験をもとにお話ししたいと思います。アメリカや日本とは異なるイギリス独自のジャズが世界で注目されている理由を解説しながら、それを生んだイギリスの歴史の面白さや、イギリス文化の魅力をお伝えできたらと思います。

## 講演者プロフィール：

1979 年、島根県・出雲生まれ。ジャズとその周辺の音楽を扱う音楽評論家。21 世紀以降のジャズをまとめた世界初のジャズ本『Jazz The New Chapter』シリーズ、マイルス・デイヴィスを現在の視点から読み解いた『Miles Reimagined』の監修を務める。共著に後藤雅洋、村井康司との鼎談集『100 年のジャズを聴く』などがある。『WIRED』日本版、『D-JAPAN』『CD ジャーナル』『JAZZ JAPAN』『ミュージック・マガジン』『BRUTUS』『ユリイカ』などの雑誌にも寄稿。ジャズに留まらず、数多くのライナーノーツも手がけている。『Jazz The New Chapter』シリーズのコンピレーション CD などの選曲家としての仕事も多数。現在、鎌倉 FM「世界はジャズを求めている」(毎月第 3 木曜日) 放送中。

お問い合わせ先：文学部英米文学科 久野陽一